

アンニョン！アジア共同体学校

朴 順子

昨年5月から12月まで韓国、釜山で過ごした日々が今では遠い日のことのように。私は、その間、釜山にある「アジア共同体学校」に韓国語と日本語の講師として勤務したのである。

温かいメッセージにかわいいプレゼントまで添えて見送ってくれた子どもたち、その一人一人の顔を思い浮かべながらまた会える日を心待ちにしている。



アジア共同体学校は 多文化フリースクール

アジア共同体学校は正式に認可された学校ではない。プサン教育庁からの委託を受け各学区に入ってきた児童や青少年に韓国語と韓国社会への適応教育を行う多文化フリースクールである。運営は市からの補助金と寄付で賄っていて子どもたちは給食費のみを負担している。

常時25～30人ほどが在籍する多文化予備クラスと、その他に小・中・高の正規クラスがあって全体では約90名が学んでいる。中国・ベトナム・パキスタン・タイ・モンゴル・フィリピン・ロシア・ウズベキスタン・インドネシア・エジプト・アメリカ・イギリス・日本・韓国など国籍の異なる子どもたちは入学時期もその背景も多様である。また在学しても途中で国に帰ったり、親の事情で他へ移ったり、あるいは子どもだけが残されたり帰されたりと安定した状態ではない。

入国の背景には再婚や離婚・就労や難民問題があり、家族・片親・ひとりなど、生活状況や習慣も様々である。イスラム圏の子どもたちはラマダーン月には暑い日でも学校で水も飲まない。勿論、給食の豚肉などは避ける。

パキスタンからの3兄弟は7人家族がタイを経由し難民資格で韓国にやってきた。本国にい

た頃は10部屋もある大きな家に住み、親族は100人位になるという。両親は言葉が出来ないので買い物をはじめ対応の多くを子どもたちが担う。

ある日、中2の男子生徒が遅刻してきたので聞いてみると、ガスが切れたので業者が来るまで待っていたとのこと、予想できないことが多いのだろうと思った。

予備クラスでの授業を担当

予備クラスでの授業は一応ABCと分けられてはいたが、年齢も出身地も異なる子どもたちが同じ教室で授業を受ける。それすらも学年によって英語や数学・社会など正規の授業に移動する時間がある、毎回顔ぶれが違うので授業の進め方に悩みも多かった。またこの学校には英語・ロシア語・中国語・日本語などの外国語、ピアノ・バイオリン・テコンド・バリスタ・製菓製パン・囲碁など多方面にわたって外部の講師が担当しているので時間の確保が容易ではない。課外活動やボランティア活動も重視しているので各種行事のため予定の変更もたびたびあった。

今まで経験したことのない現実を前に、ここで最も求められるのは臨機応変に対応する能力なのだとも痛感した。片言の英語や漢字、身振り手振りを交えての試行錯誤の授業が続いた。う

まく説明できない時は韓国語が出来る生徒を呼んで伝えてもらった。発音も国によって苦手な音が違うので、それぞれに録音したものを聞いてもらったりした。

子どもたちはすごい

ところが子どもたちの吸収力は予想を超えて、夏休みが終わるころには日常会話をこなし、個人差はあるものの、こみ入った話も出来るようになってきた。先生たちの釜山なまりにも対応可能になった。みんな日本のアニメが大好きで「ドラえもん」の歌は何カ国語にもなっていた。韓国語で、日本語で一緒に歌いながら世界の子どもたちの心をつかんでいるドラえもんは本当に偉大だと思った。

スケールの大きい行事

行事もまたスケールの大きいものだった。3回目になる10月のワールドゴーストフェスティバルはその規模と内容がとても大がかりで、全校生や父母・地域住民や多くのボランティアに支えられ3日間で6000人が来場した。

先生と生徒が企画し、テーマを決め各ブースごとに制作に取り掛かる。1か月間、夜遅くまで作業は続いた。「不思議の国のアリス」をテーマに大きな花やキノコが入り口を飾り、各ブースでは世界のゴーストストーリーが作られていった。

私には先生たちが当日に着るアリスのエプロンドレスを10着作るようにとの依頼が来た。ミシンを使う機会などほとんどなかったので戸惑うことも多かったが、熟練のハルモニの厳し



い手ほどきのおかげで何とか完成。

「走るそうめん」に大喜び

当日の屋台では手作りの流しそうめん用の流し竹が置かれ楽しんだ。韓国語では「走るそうめん」になったが、「クレヨンしんちゃんが食べていたのはこれだったんだ！」と子どもたちは大喜び。仮装が入場資格になっているのでどこも華やかだった。

最終日の夜、校舎から赤々と燃えるファイアへと、人々が両側に並んで道を作った。各ブースを演出した子どもたちが拍手に迎えられ駆け下りてきた。喜びにあふれた顔が炎に照らし出され思い思いに踊り始めた。そして子どもたちは先生たちに駆け寄り胴上げを始めた。

まさか私までとは思わなかった。あつという間に体が宙に浮いた。やり遂げた子どもたちの顔は本当に美しい！

地図なき道へのチャレンジ

一昨年夏の赤城キャンプに参加したアンナやヒヨンスとの再会もあった。ほかの高校へ移ったアンナは頑張って釜山大学に合格した。ヒヨンスは夜遅くまでアルバイトをこなして志望大学に向けて準備中だ。みんなみんな夢をかなえて幸せになってほしい!! 熱い思いが祈りになった。

現実には厳しい。慢性的な財政難・老朽化した校舎・寒い教室・ハードスケジュールに耐え切れずやめていく教師。様々な問題を抱える子どもたちへのサポート。意思疎通を阻む言葉の壁。多文化共生という地図なき道へのチャレンジは果てしない。

多文化のハードルを越えた居場所

学習意欲のない子も休まず学校に来る。遅刻してそっと私の教室に潜り込み、ただ座っている子もこの学校には来る。

ここには自分の言語で話せる友がいる。心の隙間を埋めてくれる温かさがある。多文化のハードルを越えた自分の居場所がある。

ファイト!!!